

守口キャンパスにおけるMoodleを使った英語多読プログラム

Visgatis Brad*¹ 正木美知子*² 多田 昌夫*³**English extensive reading program using Moodle at Moriguchi campus**Brad Visgatis*¹ Michiko Masaki*² Masao Tada*³**Abstract**

This paper discusses the development and implementation of a computer assisted English extensive reading program and reports results from a pilot test of the program. In order to foster language learning, freshmen students at the Moriguchi campus of OIU have been required to read graded readers outside of class as extensive reading and to submit paper-based book-reports. However, these reports were difficult to analyze due to variant formats and the large amount of data. For this project, we have developed a new graded reader reporting system using a combination of the Moodle on-line learning environment and an on-line data collection service, SurveyMonkey and conducted a pilot at the end of the 2006 school year. More students (N = 87) than expected participated during a four week period. Students reported positive attitude toward reading graded readers.

キーワード

Moodle、多読、グレイディッドリーダーズ、ブックレポート

I. はじめに

最近、オンライン学習システムなどITを活用した教材や授業がますます増え、そして多くの大学が、BlackBoard・WebCT・Moodle等に興味を示し、その学内における使用を促すようになってきた。本学でも、eラーニング委員会が立ち上げられ、授業でのMoodle使用が奨励されるようになった。本論文は、そのようなeラーニングを授業に導入する一例として、人間科学部を擁する守口キャンパスにおける、Moodleを用いた英語多読プログラムの構築の過程について報告するものである。それに加えて、2006年度末に行なった、パイロットスタディの結果についても報告するものである。

* 1 ブラッド ヴィスゲイテス：大阪国際大学人間科学部教授〈2007.6.14受理〉

* 2 まさき みちこ：大阪国際大学人間科学部教授

* 3 ただ まさお：大阪国際大学人間科学部教授

この英語多読プログラム構築の目的は3つある。

1. 多読を通して英語力の向上を図る。
2. 学生のリーディングに関する興味と英語力に関するデータを収集する。
3. Moodleの利用により、ブックレポートの集計に要する教員の負担を軽減する。

II. 多読の効用

日本では、英語のリーディングの授業とえば、伝統的に文法項目の学習に焦点をあてた精読 (intensive reading) が中心であり、多読 (extensive reading) はさほど行なわれてこなかった。しかしながら、多読の効果については、様々な学者が論証してきている。Mason and Krashen (1997)、Day and Bamford (1998)、Hafiz and Tudor (1989)、Nation (1997) は、総合的英語力の改善を含んだ多読の効用に注目している。また、高瀬 (2003) と森 (2002) は、英語の多読を実践した学生に英語学習動機と楽しみの増加を見いだしている。

III. 本学の基礎教育科目としての英語科目と多読プログラム

本学の基礎教育科目として位置付けられている英語科目は、全学部の学生が履修することになっており、英語 I、II、III、IV、オーラルコミュニケーション I、II、III、IV、V、VI、リスニング I、II、ライティング I、II、旅行英語、ホームステイイングリッシュ、時事英語がある。この内、英語 I、II、III、IV がリーディングの科目であり、英語 I、II は必修となっている。語学教育センターでは、多読を授業に取り入れることを促すために、従来から英語 I、II のシラバスに、学生に授業外で多読をさせるように明記し、それを共通シラバスとしている。

多読の教材としては、本学の英語教員が長年にわたって集めてきた英語のグレイディッドリーダーズを使用してきた。グレイディッドリーダーズとは、語彙数によりレベル分けされた易しい英語の読み物のことで、出版社によりレベル分けが異なるが、本学では、語彙数と文法の複雑さにより5つのレベルに分けている。これらのグレイディッドリーダーズは、ネイティブの子ども向けの本、絵本、英語で書かれた日本の物語、有名な物語のリトルドなどを含む。全部で、2,147タイトルで、計3,041冊ある。これは、守口キャンパスにおいてざっと一人あたり1冊という勘定になる。グレイディッドリーダーズのために、図書館の1階に専用のコーナーを設けている。グレイディッドリーダーズのレベル別冊数は図1の通りである。

英語 I、II を教える教員に対しては、毎年12月に懇談会を行ない、半期の学期中に5冊以上グレイディッドリーダーズを読むことをご指導いただきたいとお願いしてきた。昨年度までは、語学教育センターがブックレポート用紙を用意し、それを使って学生は読んだ本についてブックレポートを作成し、担当教員に提出することになっていた。そして学期末には、担当教員はブックレポートを語学教育センターに提出することになっていた。

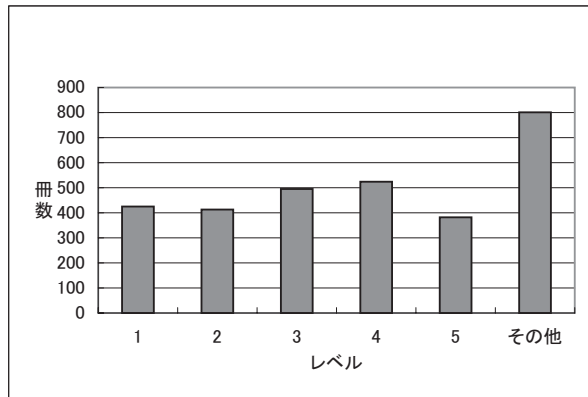


図1：レベル別の本の冊数

IV. 新たな英語多読プログラムの構築

この英語多読プログラムをさらに強力なものにするために、私達は、eラーニングを取り入れることにした。紙によるブックレポートは、最終的に語学教育センターに提出されるが、そのデータを分析することはほとんどできていなかった。それは、ブックレポートの量が余りに多く、データ入力だけでも膨大な労力と時間を要するからである。もし、ブックレポートをオンラインで提出させれば、データの処理は格段に簡単になるのではないかと、そして、そこに新たな英語教育の機会が生まれるのではないかと考えた。そして、学習用無料ソフトであるMoodleを使いブックレポートを提出させるシステムを構築すること、それにより本学の英語教育のためにできることを探ることにした。それは、Moodleが私達の目的に合っていたこと、学内でMoodleの活用が奨励されていたこと、無料であることなどによる。

私達は、Moodleを使ったオンラインブックレポート提出システムを作るために、まずブックレポートのフォームについて検討した。従来は、学籍番号、氏名、読んだ本の題名、著者名、出版社、レベル、ページ数、読むのに要した時間、そして、内容の要約・感想を書いてもらっていたが、本研究では、読んだことの証明になる項目以外に英語教育に貢献するような質問項目を入れたいと考えた。そのために、「英語に関して何を学びましたか。」「読んでいて何か文化の違いに気がつきましたか。」という質問を追加し、その代わりに、感想は省いた。そして、それらの項目は選択制とし、たとえ答えなくてもブックレポートを送ることができるように設計した。このように柔軟性を持たせたのは、1つには担当教員の指導方針を反映できるようにするためである。学生の読後感や多読を通して学んだことについての詳細なブックレポートを望む教員もいれば、学生にブックレポート作成よりも多読そのものにもっと時間を割いてほしいと望む教員もいるからである。また、ブックレポートのフォームは、日英どちらでも記入できるようにした。これは、学生の負担感を減らし、かつ意欲のある学生には英語で書く機会を提供するためである。更に、今後の本の選択に役立つように、本の推薦度を尋ねる質問を加えた、また、本の確認に役立つように、図書番号の項目も設けた。これらのブックレポートは、英語I、II担当教員を通し

て学生に返却されるので、担当教員の氏名、授業曜日、授業時限も項目に加えた。表1は、ブックレポートの項目と必須（書かなければ、ブックレポートは送信されない）と選択の別、及び記入方法である。

表1

項目	必須・選択	記入の方法
学籍番号	必須	記入
学生氏名	必須	記入
英語 I、II 担当教員名	必須	選択
授業曜日	必須	選択
授業時限	必須	選択
本の題名	必須	記入
図書番号	必須	記入
本のレベル	必須	選択
ページ数	必須	記入
読むのに要した時間（分で）	必須	記入
本の推薦度	必須	選択
英語について何か学びましたか	選択	記入
文化の違いに気づきましたか	選択	記入
この本は何について書かれていましたか	選択	記入

このようにしてブックレポートのフォームを作成したが、Moodleには、簡単な小テスト機能はあるが、本格的なアンケート集計機能はないことが判明した。どのようにして、Moodleにアンケート集計機能を持たせるかが、まず最初にぶつかった大きな問題であった。この問題に対しては、有料のアンケート集計サイトであるSurveyMonkeyを使うことにした。このサイトを使えば、アンケートを自在に作ることができ、それを他のページにハイパーテキストでリンクさせたり、参加者にeメールで送ることができる。私達は、作成したブックレポートのフォームを本学のMoodleを用いたeラーニングサイトのgraded readersのページにアップロードし、それをsecuredでSurveyMonkeyにリンクさせた。ここで、2つ目の問題がでてきた。SurveyMonkeyはCSVデータをダウンロードする機能を持っているが、残念ながら日本語データを扱うことができないのである。この2つ目の問題に対しては、ExcelとFileMakerデータベースを使うことによって解決する方法を見いだした。各々のブックレポートはオンラインで正確に見ることができるので、それをコピーしてExcelに貼付ける。そこで、macroを使って、適切なデータカテゴリーに分ける。これらは、FileMakerデータベースの中に移され、編集される。ここで、各々のブックレポートと各担当教員毎に集約されたデータが印刷される。印刷されたブックレポートは、語学教育センターにより、各担当教員に配布される。

V. パイロットスタディ

いくつかの技術的な問題が、英語多読プログラムの実施を2006年12月まで遅らせてしまった。本格的な導入はあきらめざるをえなかったが、パイロットスタディだけでも実施したく、例年12月に行なわれる非常勤講師の先生方との懇談会で、英語 I、II をご担当の先

生方のご協力を仰いだ。懇談会では、多読の効用を説明し、どのようにMoodleにログオンし、どのようにブックレポートを提出するかを詳しく説明した小冊子をお渡しし、それを学生に配布して下さるようお願いした。

1. 被調査者

学期末近くに始めたにも関わらず、また多くの学生が、割り当ての5冊を読んでしまっていたのにも関わらず、そして必ずしもオンラインで提出する必要がなかった（ブックレポート用紙で提出も可能だった）にも関わらず、80を超えるブックレポートが1月に提出された。これは予想以上であった。この期間、英語Ⅱの担当教員のうち1名が協力してくださり、研究者の一人が教えるライティングⅡの学生、およびこのプログラムに興味をもった学生が個人で参加してくれた。

2. 結果

2.1 closed-ended questionsに対する答え

表2は、closed-ended questionsの答えのクラス別集計である。

表2

項目	英語Ⅱ	ライティングⅡ
参加した学生数	24	6
ブック・レポート総数	72	9
一人当たり最大数	6	2
一人当たり平均数	3	1.5
一人当たり最小数	2	1
読書時間（計）（分）	6,969	145
一人当たり最長時間（分）	600	30
一人当たり平均時間（分）	97	16
一人当たり最短時間（分）	10	5
ページ数（計）	3,583	211
一人当たり最大ページ数	332	51
一人当たり平均ページ数	50	23
一人当たり最小ページ数	16	14

「読んだ本を推薦しますか。」という質問に対しては、22%の学生が「強く推薦する」と答え、46%の学生が、「推薦する」、24%の学生が「少し推薦する」と答えている。5%の学生のみが「推薦しない」と答えている。このことから、学生は総じて多読に対して前向きであることが伺える。（図2）

読むのに費やした時間は3分から60分にわたっているが、25分前後と60分以上のところに集中している。時間がかかっている学生は、実際には多読ではなく精読を行なっている可能性もある。（図3）

読んだ本のレベルに関する集計の結果は、学生が最も易しい本を選ぶという圧倒的な傾向を示している。80%以上の学生がレベル1か2を選んでいる。（図4）

このことに対しては、いくつかの解釈が可能である。一つは、学生が本当に多読をして

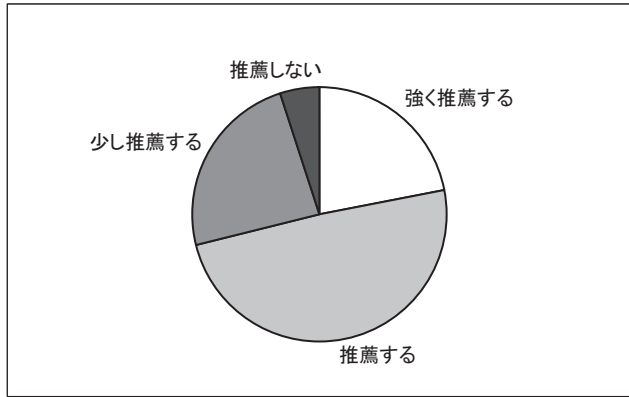


図2：本の推薦の程度

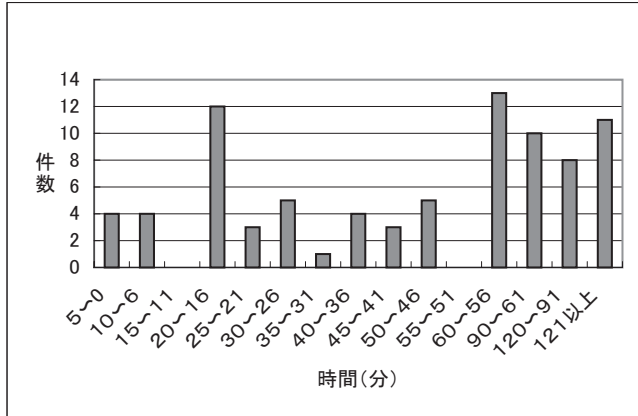


図3：1冊読むのに要した時間

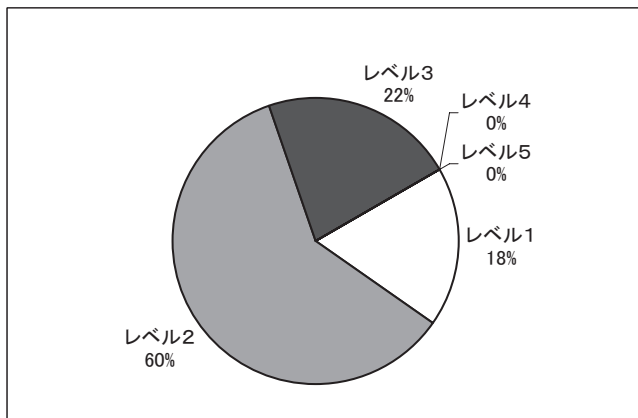


図4：読んだ本のレベル

おり、辞書や参考書に頼ることなく読める本を選んでいるかもしれないという解釈である。もう一つは、おそらくこちらの方が可能性が高いと思われるが、学生は授業の課題をこなすのに、多読の重要性を理解せず、もっとも安易な道を選んでいるかもしれないということである。

2.2 open-ended questionsに対する答え

質問：英語に関して何を学びましたか。単語、イディオム、文法、何でもかまいません。具体的に書いてください。

この質問に対しては、83人の内68人（約82%）が回答した。学んだこととして語彙を挙げた者が最も多く45名であった。挙げられた語彙は、ugly、huge、stairs、frightenなどであり、全体としては様々であったが、感情や外見を表す語が多かった。これらの語は、学生が本の中の主人公や他の登場人物を理解するのに関係していたのではないだろうか。他の語は、wizard(The wizard of Ozから)やred riding hood(Little Red Riding Hoodから)のように物語を理解するのに欠かせない語であった。多くの学生はこれらの語を辞書で調べたと書いているので、グレイディッドリーダーズの文脈を通して理解したのであると推測されるが、今回の研究では理解の過程はわからない。

11名の学生は学んだこととして文法項目を挙げていた。それは、感嘆文、仮定法、関係代名詞、分詞構文、時制、文の構造であった。

ある学生は英文の手紙の書き方を学んだと書いていた。また、別の学生は英文の韻について学んだと書いていた。学んだこととして、通貨や料理のレシピに関する表現を挙げた学生もいた。何人かの学生は、英語と日本語の表現の違いを楽しんだと答えていた。

質問：読んでいて何か文化の違いに気がつきましたか。

この質問に対しては、83名の内50名が回答した。たいていの学生は、英語圏の国々の人々と日本人との服装や食べ物・飲み物の違いに言及していた。ある学生は、「アメリカ人の子どもは乗馬や射撃を楽しむということを知った。」と書いていた。また、別の学生は、「オーストラリア人は、友達を家に招くのだと知った。」と書いていた。

質問：この本は何について書かれていましたか。

この質問に対する答えは、各々の学生が読んだ各々の本の内容の要約であるので、ここでは省略する。

このように、多くの学生がブックレポートのopen-ended questionsに答えてくれた。彼等は、グレイディッドリーダーズを読むことによりいくつかの語彙や文法、韻などを学んだようである。学生達は、物語の生き生きとした表現から語彙や文法を学んだのではないかと思われる。加えて、彼等はまた、文化の違いについても学んだと述べていた。これらの結果は、多読としてグレイディッドリーダーズを読むことが英語学習と異文化理解に何らかの効果があることを示唆している。

Ⅵ. 2007年度の英語多読プログラム

2007年4月から、英語多読プログラムを本格的に開始した。従来通り、守口キャンパスのすべての1回生に、半期で少なくとも5冊のグレイディッドリーダーズの読書を課し、Moodleを通してブックレポートを提出させることにした。そして、新たに、多読を促進するために多読コンテストと推薦コンテストを設けた。多読コンテストは、読んだグレイディッドリーダーズの語数の最も多い学生3名を表彰するものである。また、推薦コンテストは、学生の推薦が最も多かった本を明らかにし、上位3冊を推薦した学生すべてを表彰するものである。これらのコンテストも、オンラインでブックレポートを提出させることにより可能になったものである。また、多読による学生のリーディングに対する学習動機の変化を探るために、前期の始めと終わりにアンケート調査をMoodle上で行なうことにした。これらを実施するために、多読の意義、Moodleによるブックレポートの提出の仕方、多読コンテストと推薦コンテストの実施のお知らせ等を綴った小冊子を用意し、英語Ⅰ、Ⅱの担当教員にお願いして、授業始めに1回生全員に配布した。

2007年5月31日の時点で、計310名の学生が、英語多読プログラムに参加した。今後、さらに大勢の学生が参加してくれると思われる。

Ⅶ. 今後の研究計画

Ⅵ.で述べたように、2007年度の英語多読プログラムは、現在進行中である。参加する学生は、日々増加し、ブックレポートの数も順調に増えているが、問題がないわけではない。特に、技術的な面で既にいくつか問題が出てきている。これらについては、後日、稿を改めて報告したい。

2006年度に行なったパイロットスタディから浮かび上がってきた問題点を基に、英語多読プログラムをより良いものにするために、以下のような研究を計画している。

1. 技術面での改善点

現在のシステムでは、学生は自分が提出したブックレポートをコピーすることができず、提出の証拠がない。もしも、何かMoodle上でトラブルが起きて学生のブックレポートが届かなかった場合、学生の不利益となる。加えて、学生のブックレポート提出と、担当教員によるブックレポート返却には時差がある。これは、担当教員が自ら学生のブックレポートを印刷することができないからである。これらの問題を解決するためには、SurveyMonkeyに代わる新しい集計ソフトを探す必要がある。

もう一つの問題は、読んだ本について学生が記入すべき項目が多いということである。記入すべき項目を減らすために、ブックレポートとグレイディッドリーダーズのデータベースをつなぐことができないか検討している。もしこれができれば、学生はISBNを打ち込むだけで、本の題名、著者名、ページ数、レベルが自動的に記入されるようになる。

2. 語彙テストの開発

学生がより適切な本を選ぶ手がかりになるように、簡単な語彙テストを開発したい。

3. 英語リーディング教育改善のためのデータ収集

英語学習動機が半期の多読プログラム参加によってどのように変わるのかを調べるためのアンケートは既に用意した。更に、英語力テストと多読プログラムへの参加との関係を探りたい。また、学生の多読行動（どのようにして本を選んでいるのか、読むことを楽しんでいるのか等）を探るために、ブックレポートの質問を学生の負担にならない程度に増やしたいと考えている。

4. 英語多読プログラムの検証

今回、構築した新たな英語多読プログラムに関して学生はどのように感じているのであろうか。また、英語 I、II 担当教員はどのように感じているのであろうか。プログラムを作成した私達の意図は十分に理解されているのであろうか。また、このプログラムは英語教育に対してなんらかの貢献をしたのであろうか。これらの疑問に対する答えを得るために、学期末に、1 回生全員と英語 I 担当教員全員に対してアンケート調査を実施したい。

参考文献

- Day, RR & Bamford, J 1998, *Extensive reading in the second language classroom*, Cambridge University Press, Cambridge.
- Hafiz, FM & Tudor, I 1989 'Extensive reading and the development of language skills', *ELT Journal*, 43, pp. 4-13.
- Mason, B & Krashen, S 1997 'Extensive reading in English as a foreign language', *System*, 25, pp. 91-102.
- Mori, S 2002, *The relationship between motivation and the amount of out-of-class reading*, PhD dissertation, Temple University, Philadelphia.
- Nation, ISP 1997, 'The language learning benefits of extensive reading', *The Language Teacher*, 21, pp. 13-16.
- Takase, A 2003, *The effects of extensive reading on the motivation of Japanese high school students*, PhD dissertation, Temple University, Philadelphia.